

令和3年度第1回 安城市総合計画審議会 議事（要旨）

日 時	令和3年6月25日（金） 午後2時～3時40分	
場 所	へきしんギャラクシープラザ（文化センター）3階 大会議室	
出席者	委 員	加藤研一会長、太田千尋副会長 飯尾歩委員、杉浦昭子委員、安田孝美委員、久恒美香委員、 渡邊裕子委員、岩月豊委員、神谷明文委員、沓名俊裕委員、 戸田こず恵委員、笠原昇悟委員、菊智ゆき委員、宮澤和枝委員 （WEB出席） 深谷誠委員、伊藤朝野委員
	事務局	市長、副市長、教育長、企画部長、行革・政策監、 関係部長級幹部・課長、健幸=SDGs課長、健幸=SDGs 課長補佐、健幸=SDGs課職員
次 第	1 市長あいさつ 2 議題 （1）第8次安城市総合計画（後期計画）の実績報告について （2）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について （3）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版 ふるさと納税）に係る事業の令和2年度実績 3 その他	

1 市長あいさつ

皆様、こんにちは。本日は、大変ご多用の中、令和3年度第1回総合計画審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

愛知県でも、5月12日から3回目となります緊急事態宣言が発出されるなど、昨年度から続くコロナ禍は、依然として市民生活に大きな影を落としております。

そのような状況下において、切り札となるワクチン接種であります。本市では4月19日の老人福祉施設での接種を皮切りに、5月10日には65歳以上の方へ接種クーポン券を発送し、予約ができた方から順次接種を実施しております。また、予約に際して、WEBでの予約を希望する方へ、市職員による予約支援を実施いたしました。今のところ大きな混乱もなく、大変順調に進めることができていると考えております。

そして現在は、年齢を下げながら、順次接種の対象者を広げております。本日付で40

～59歳の方へ接種クーポン券を発送しており、段階的に若い世代への接種を進めてまいります。

また、コロナ禍の影響による家計、事業への負担軽減、景気の底上げを図るため、市独自の施策となります。「安城プレミアムお買物券発行事業」を、昨年度に引き続き、今年度も実施いたします。

今後も日々変化する状況を踏まえ、安全安心な日常生活や正常な社会経済活動の復活に向けた施策を適宜進めてまいります。

高齢化社会の到来に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という想定外の事態に見舞われる今の状況は、「自分が健康でありたい、そして、家族も健康であって欲しい。」という願いをより切実なものとし、「健やか」こそが市民生活の幸せの根幹をなすものであると気付いていただく契機となったように思われます。

第8次総合計画で目指す、市民一人ひとりが「健やか」、「幸せ」を実感できる「健幸（ケンサチ）」なまちづくりのためには、現在進めている各事業の成果を客観的に分析・評価することが必要となります。皆様のご審議とご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、今、申し上げましたケンサチまちづくりは、国際社会の共通目標でありますSDGsに設定された2030年までに達成すべき17のゴールを目指すことにもつながるものと考えております。

「ケンサチはSDGs」のスローガンのもと、各事業間での連携、公民連携を通じてケンサチまちづくりをより強く推進してまいりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

今回の審議会では、昨年度から新たにスタートした第8次安城市総合計画の後期計画「ケンサチ2.0」及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況についてご報告させていただきます。また、地方創生関係交付金を活用した事業等の実績についても、合わせてご報告をさせていただきます。

なお、総合計画審議会委員としての皆さま方の任期であります。本年8月9日までとなっております。今後、安城市附属機関の設置に関する条例の規定に基づき、委員の改選を行いますので、このメンバーの皆さんで集うのは、本日が最後の審議会となります。改めまして、委員の皆様方のご尽力に、感謝申し上げます。3年間、大変ありがとうございました。

以上、長くなりましたが、私からのごあいさつとさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2 議題

(1) 第8次安城市総合計画（後期計画）の実績報告について

【加藤研一会長】

皆さんこんにちは。それでは早速議事に進みたいと思います。

本日は、(1) 第8次安城市総合計画（後期計画）の実績報告について、(2) 第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、(3) 地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告についての3つの議題について、ご審議をいただきます。

それでは、まずは(1) 第8次安城市総合計画（後期計画）の実績報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

【加藤研一会長】

はい。ただいまの事務局からの第8次安城市総合計画の進捗について説明がありましたが、ご意見、ご質問がございましたら発言をお願いします。

【飯尾歩委員】

先ほどの三河安城駅周辺のパワーアップ再生プロジェクト。補助がつかなかったので手づくりでやったというところをもうちょっとご説明いただけますか。何をするつもりだったのかを。

【都市整備部長】

都市整備部長の宮地でございます。よろしく申し上げます。先ほど説明のとおり昨年度はコロナ禍で活動の幅が制約されたということで、職員で活動させていただいたわけでございますが大きく3点ございます。

1点目は街を使う活動としまして地域の活動者を中心に、公園や広場などの公共空間を柔軟に使わせていただきまして、マンションですとかそういったイルミネーション、こういったものを行いました。また公共空間だけではなくて、駅前の民有地もお借りしながら、ランチ販売そういった活動をさせていただきました。

2点目は、まちを深く知るということで地域の活動団体と意見共有会ということで、これは「つかう・meet」という組織を立ち上げまして、大学生ですとかあるいはオフィスワーカーなどを巻き込みながらイベントをする活動をさせていただきました。

それと、3点目は、まちなかウォークブル推進事業という5か年計画を作らせていただきました。

これが国土交通省から評価をされまして、全国で13都市の中にそういったまちづくりの活動が評価されまして、昨年末に安城市のこの活動が、モデル都市として指定をされたということで、指定をされたことによってこの活動に国の補助金が入るといようなそういった活動でございます。以上でございます。

【飯尾歩委員】

ごめんなさい。ちょっと理解が。要するに補助がつかなかった分をこのマルシェにしても、つかう・meet にしても、ウォークブル5か年計画にしても、やれる範囲で独自に組みかえたという解釈でよろしいですか。それともウォークブルの部分が後からついてきたという感じ。

【都市整備部長】

そうですね。そのようなご理解で。

【飯尾歩委員】

いや、とても素晴らしいことだと思いましたので。ありがとうございます。

【加藤研一会長】

他にございますか。はい、お願いします。

【沓名俊裕委員】

安城商工会議所会頭の沓名でございます。

報告の中です。安城プレミアムお買い物券発行事業の9ページにありますけれども、安城市のですね、このコロナ禍でも随分商店街を中心ですね、かなり疲弊しているところをこのようなプレミアム券を発行していただきまして、かなり大盛況でございます。

やはりこのコロナで飲食の店を筆頭に商店街の人たちが中心にかなり疲弊しておりましたので、そういった面で非常に助かったと。非常にうれしい声をたくさん聞いておりますので、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

このコロナで今年の安城七夕まつりも中止ということになりまして、非常に残念ではありますけれども、これ以上の感染爆発はどうしても避けなきゃいけないということでやむを得ないことだというふうに思います。こういった環境で飲食をはじめ各商店街の人たちが非常に困っているところを安城市長をはじめ皆様のおかげでプレミアム券を発行することができました。大好評でございますので、安城市のこのプレミアム券についての事業、私からも本当にお礼を申し上げる次第でございます。これからも安城市の健全な経営をよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

【産業環境部長】

ありがとうございます。今年度もプレミアム商品券をやらさせていただきました、その節には商工会議所の皆さんにもお手伝いいただきまして、ありがとうございます。今回もすごく盛況で、ほぼ全部売れておりますので、今後も安城市の中小企業の支援を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

【加藤研一会長】

他にございませぬか。

それでは特にご意見はないようでございますので、本日、委員の皆さまから出された意見を踏まえ、新たにスタートした後期計画でも、「幸せつながる健幸都市 安城」の実現に向け、着実にプランを進めていただきたいと思ひます。以上で、議題（1）第8次安城市総合

計画（後期計画）の実績報告について、を終わります。続いて、議題（２）第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について事務局より説明願います。

（２）第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について
（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について説明がりましたが、ご意見やご質問がございましたらご発言願います。

それでは特に、ご意見はないようですので、わたしから一言、第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関しましては、第８次総合計画の後期計画と同様に昨年度から新たにスタートしております。策定時から向上している指標と後退している指標がこちら半分程度ずつとなっています。実績値が算出できない指標も併せて実績の向上、目標達成に向けて着実に施策を進めてほしいと思います。以上で、議題（２）第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、を終了します。

続いて、議題（３）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業の令和２年度実績について、事務局より説明願います。

（３）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業の令和２年度実績
（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告について説明がりましたが、ご意見やご質問がございましたらご発言願います。

【沓名俊裕委員】

私の観点から見ると、この５ページのところの創業者数がですね、実績値で２６２人という人が創業者で仕事を始められているという数字が出ていますが、これは非常によい数字だと思いますし、この安城でこういった創業者の人たちが、活発的に新しい事業としてやれるということは結構だと思いますし、それに対してのＡＢＣさんの全面的なバックアップをさせていただいておりますので、そういった意味では非常に嬉しい数字だなというふうに思います。

そして今もいろんな報告があるんですけども、今コロナ禍でかなりの時代の変化が来るやもしれない。大きく考えてみますと、今この地域というのはトヨタ自動車さんの影響でですね、トヨタさんは世界一のトヨタ自動車になりましたので、そういった影響で企業の人たちは全盛で大変忙しくてたまらないぐらいの影響があるわけですけども、これが１０年も２０年もずっと続いてもらうことを願ってはいるんですけども、どこかでもっともっと大きな時代の流れが来るやもしれない。そうした中で安城もトヨタさんの依存度がかな

り高いものですから、そういった意味で安城独自の大きなものがあるといいなと思うわけでありまして、アメリカでもカリフォルニアのシリコンバレーのような超有名な街ができているわけですが、いわゆる何でもやっている安城ではなくて、安城といえば昔は日本のデンマーク安城という看板ができたように、何かそういったものがあると非常に嬉しいなと。これから一つの大きな目指す方向があるなと思うわけですが、私も安城としてですね、やはり農業という部分がベースのところ非常に大きいものですから、恵まれた農地があつて、恵まれた水があつて、そういったことで安城市がこれだけ成長してきた時代があることを考えますと、今はインターネットとか、AIとかロボットとか、今から成長していく産業ではなくて、今からもちょっと遠くを見ると農業のバイオ事業というのは、もちろん食料の工場化といったものもできてくるだろうし、その他にもバイオを使ったエネルギーとか、食料、薬、いろんなものがバイオから次の発展につながってくる気もしてですね、それは10年とか20年とかではなくて、50年とか100年というサイクルになるのかもしれないですけど、安城が目指す方向というものを大きく貫いたそんなものが一個できあがって方向が固まってくると、いろんなものが次の手といいますか、そういったものを考えてこれるんじゃないかと思うんですね。

安城市の方ですね、考えられて一つにまとまって方向が定まればですね、いろんな動き方が変わってこようかと思しますので、ぜひともお願いしたいなと思います。よろしく願いします。

【加藤研一会長】

ありがとうございます。ただいま農業振興にいろいろとアドバイスをいただきました。一番関係の深い明治用水の岩月委員。何か関連のあるお話がございましたら。

【岩月豊委員】

明治用水土地改良区の岩月と申します。やはり、安城はもともと農業中心に発展して、商業、工業とともに発展して、今や両方が共存しあう市かなというふうに思っております。今会頭がおっしゃられたように、農家のほうもですね、収益の作物、そういったものを作つてですね、生産を上げて収入を上げていくということが、市民にとっても有効かなというふうに思いますので、そういったことを策に入れて取り組んでいただければと思います。

【加藤研一会長】

ありがとうございます。他にございますか。菊智さんよろしいですか。いいですか。はい。

それでは、ご意見も出尽くしたようですので、本日、委員の皆さまから出された意見を踏まえ、今後も引き続き しっかり事業を進めていただきたいと思います。以上で、議題(3) 地方創生関係交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る事業の令和2年度実績について、を終了いたします。

それではまだ時間がございますので、ここで学識経験者の皆さんからお話をいただきました。まず、飯尾先生、お願いいたします。

【飯尾歩委員】

先ほどちょっと申し上げましたけれども、今沓名委員がおっしゃった、今後いろんなことが変化をしてくると、今日はすいません。ちょっと遅れてきたんですけども、計画の進捗状況というのはいつもながら安城市さんは粛々と進んでいるということなんですけれども、コロナが教えてくれたことっていうのは、国なんかの政策を見ているとわかるんですけど明確な目標を持つことの大切さ、それに向かって進んでいくことの大切さということもあるんですが、SDGsにあてはめて物事を考えていく、それは少し推進力になると思うんですけど、もう一つ柔軟性っていうものが非常に大事じゃないかということも教えてくれていると思うんですよね。真っ直ぐ進んでいくことがいいことなのかという。

もう一つは一極集中から地域分散、柔軟性という意味では先ほどご説明させていただいたように、計画や補助金のあり方について、何らかの変更があった場合に、それはその地域の力をもって、フォローアップしていく力を持つという柔軟な地域力というものを計画遂行の中で養うってことが非常に大切だと思いますし、それを見事におやりになっているということに非常に頼もしさを感じたのと、それから沓名委員がおっしゃった依存ですよ。補助金の依存もそうですけれども、一つの企業に依存していい時代ではないという。おそらくその代わりになるものというのは、安城独自のものを、今あるものを。これからはよそからものを持ってくる時代ではなくて、お金も含めてですね。とれるものはとってもいいんですけども、そこにあるものを生かす、伸ばすっていうことがすごく大事だなと思うんです。マスクでもそうですし、ワクチンでもそうですけれどもよそから持ってくればいいっていうものじゃないってことがよく分かりましたし、そういう意味では明確な目標を持つってことも大切ですけども、柔軟性、それから地域分散っていう考え方、バックアップ、フォローアップができるような地域力っていうのが、SDGsっていうのは目標を達成すればいいということではなくて持続可能性の問題ですので、地域を持続可能なものにするためにはどうしたらいいのか。持続していくということは発展以上に大事だと思うんです。ですから、それがどういうふうに進んでいくのかっていうことをコロナ禍で柔軟に考えていって、このまま真っ直ぐ進むっていうだけじゃなくって、その計画をいかに地域の持続可能性、安城市の持続可能性に生かしていくかっていうことを考えながら、今後の期間を過ごしていただきたいと思います。以上です。

【加藤研一会長】

はい。ありがとうございました。では続きまして名古屋大学大学院の安田先生、お願いします。

【安田孝美委員】

はい。安田でございます。まずは全体のご報告を伺ってですね、非常に実直に計画を遂行されているということに、敬意をまず表したいというふうに思います。その上で、それぞれの計画の達成がですね、半分くらいしているということにはよかったというふうに思うんですけども、ここです、感染症の影響がなかったとするならば、どこまでいったの

かというイメージをですね、ぜひ皆様方各部署でですね持っていただくと次のアクションにまたつながるかなと思いますので、そのイメージを持っていただくとよろしいかなというふうの一つ思いました。

それからその感染症に関しましては、人流の制限ということがありましてですね、その中でですね、恐らく皆さんいろんなお仕事なさってる中で、新しい気付きみたいなものですね、生まれたんじゃないかなっていうふう思うんですね。なので、そういった気付きをぜひですね、共有していただいて次の計画にぜひ生かしていただきたいというふうに思いました。

それからもう一つはですね、K P I を基準としてですね、それで達成率を考えるっていうのはこれは基本的な発想だと思いますので、ここはもちろん押さえていかなければいけないんですけども、私はこの数字の中身ですね、ここをぜひそれぞれの職場でですね、この中身について常に注意を払っていただきたいというふうに感じて聞かせていただきました。

これも全体に対する感想でございますが、ちょっと個別に少しお話をさせていただきたいというふうに思います。

資料2のところですね、SDG s についてのいろいろな施策に対する関連づけの説明がありました、これはぜひですね、全体が何か見えるような形でどこかの段階でですね、お見せいただくといいかな。どういう意味かっていうとですね、それぞれの施策がSDG s の何に関連しているかっていうのはこの報告書で分かるんですけども、全体としてですね、この重点戦略においてSDG s をどのような、どういう範囲でカバーしてるかっていうところがですね、こういう一覧できるようなそんなイメージがあるといいなというふうに思いましたので、これはなかなか難しい問いかけかもしれませんが、全体でこの重点戦略がSDG s のどのようなところをカバーしてるかっていうことが見えるといいなというふうに思いました。

それから同じ資料の中でですね、保育業務、これ以前よりお話を伺っておりまして大変素晴らしい取り組みだなというふうに思っております。ぜひですねこれにつきましては、現場の保育士さん、あるいはお母さん方のお話をぜひよく聞いていただいてですね、新たな利用法みたいところにぜひ発展していただきたいという感じを改めて今日報告を伺ってですね、思いました。

それからSDG s の未来会議U-24の話であるとかですね、あとeスポーツの話であるとかですね、このあたりは、先を見ている自治体は結構この子供向けのSDG s の活動であるとかですねeスポーツをどうしていくかっていうのはこれかなり熱い感じで動いていると思いますので、ぜひ安城市さんもですね、恐らく若い職員の方が中心になろうかと思いますが、ぜひ若い職員の皆さんに知恵を出していただいて、このSDG s の子供たちへの取り組みとそれからeスポーツに関して安城市がどんなことができるのかということですね、ぜひ今後議論していただけるといいかなというふうに思いました。

それから、すいません連続で、資料3のまち・ひと・しごと創生につきましてなんですけ

れども、これも先ほどK P Iの数字の中身の話をしていただきましたが、これも同じなんですけれども学校ですね、子供たち児童生徒が授業が楽しいか、分かりやすかって話があって、それに対してK P Iが向上してるからよかったねって話になってるんですけども、これぜひ現場のやっておられるかもしれませんが、児童生徒、先生の生の声をぜひ吸い上げていただいて、この%上がったっていうのはどういう意味なのかっていうところをぜひ分析をしていただき、よりまた子供たち、あるいは、先生たちの満足度が上がるように努めていただければなというふうに思います。創業者数に関しても同じです。数が増えたということは非常にいいことなんですけれども、それが今後どういうふうに安城市の産業に寄与していくのかっていうところを含めて分析をぜひお願いしたいなというふうに思います。

最後に資料4につきまして、これですね大変これも興味深いプロジェクトが幾つも並んでおりました。その中で、これも評価基準の話なんですけれども、例えばマーガレットハウス整備事業におきましては、これ目的が子供さんも増加そして雨天時における対応っていうことが書いておりましたけれども、これに対するデータがちょっと見えなかったんですね、全体の入場者数っていうのは分かったんですけども、じゃあ子供さんがこれで増えたのか、雨天時にこれをやる前と後で、入場者に影響があったのかどうかっていうところが多分大事なのかなっていうふうに思いました。

同じようにフローラルプレイスにおきまして、この目的が若者世代に届くようになっていくことであるならば、若者世代に対して前後でどういう変化があったのかっていうところをぜひ分析をされた方がよろしいのかなっていうふうに思います。

最後にですね、先ほど杓名委員がおっしゃられた創業者数を増やすっていうスタートアップの話なんですけれども、おっしゃられたとおりですね、この安城市は農業が非常に有名ということもありましてバイオを目指すという一つの方向だと思います。それだけではなくてですね、やはりこの安城市からやっぱりスタートアップ、創業者がどんどん出てくるような環境をいかにつくるか、これは非常に重要な話だというふうに思いますので、そのために何が必要かというところでですね、このA B Cもちろんそうなんですけれども目利きだと思うんですね。

ただ、誰でも、もちろん創業してくださいってことも大事なんですけれども、その中でここは重点的に大人たちがフォローしましょうよってなったときにですね目利きが大事だと思うので、このスタートアップに関するその目利き機能というのは安城市さんもぜひこれからつけていていただいてですね、将来性のある創業者を応援できるような大人たちが応援できるような体制をぜひとっていただきたいなというふうに思っております。長くなりましてすいません。以上でございます。

【加藤研一会長】

はい、ありがとうございます。では続きまして学識経験者ということで杉浦先生、お願いします。

【杉浦昭子委員】

ありがとうございます。学識経験者に入っているのがいいのか分かりませんが、スギホールディングスということでスギ薬局を、創業いたしまして、安城にもたくさんお店を出させていただいております。

今は1400店舗ぐらいになりまして、おかげさまで皆様のご支援をいただきながら、店舗拡大しているところです。本当に薬局という業種ですから、本当にも赤ちゃんからお年寄りまで、いろんな方々の対応ができるということで、本当にあの地域に根ざして、その地域の方々の健康を守りしながら生活の質を上げていくというような対応に努力しているところです。

これからも努力させていただきたいと思います。本当にありがとうございます。

【加藤研一会長】

ありがとうございました。まだちょっと時間がありますので、何かございませんか。まだ発言されてない方で。よろしいですか。

それでは事前にですね、質問を出して回答していただいた一覧ですね。裏面の方の資料2重点戦略のところのつながり促進事業というところですね、私たち町内会長がですね、小学校とか中学校と健全育成会議に呼ばれるわけですけれども、そこで近くの中学校、小学校の話聞くことが多いのですけれども、そうすると不登校の問題がかなり多いんですね。そんなにいるのだなと私の感覚からすると、そういう状況なんです。今回の質問からすると、市として直接取り組んでおられる事業の他にですね、市の市民活動補助金などを使ってですね、積極的に取り組んでみえるところがいくつかあると、私がたまたま市民活動の推進会議に出ていますので、そこでこの令和3年に名前が出てきたところではオルタナティブスクール大きな木とか、それからおこのみ会ですね。こういったところもございました。発表の内容を見ているとね、本当にボランティアということで資金集めからご苦労されているというところで切実に感じましたので、取り上げさせていただきました。こういったボランティアの団体がどれくらいあって、どれくらいの子どもたちを見ていただいているのか、そういった数字がもし分かれば、この回答にプラスしてお願いしたいなど。

【教育振興部長】

はい。教育振興部長でございます。現在ですね、このオルタナティブスクール大きな木、おこのみ会、この2団体とは接触を始めて、お話を始めたところでございまして、あとですね、市内でいくつかの団体があるということはお聞きしていますけれど、具体的にどれくらいの子どもさんたちが関わってみえるという数字は持ち合わせておりませんので、よろしくお願いたします。

【加藤研一会長】

ありがとうございました。

【渡邊裕子委員】

おこのみ会は、毎週内容は変わるんですけど、基本的に子どもが自分からやりたいっていうものをやれるようにボランティアさんたちが準備をしてくださっていて、楽しい会にな

っているので、本当に市の皆さんにもう少し知っていただいて、学校の校長先生もそういう活動があるというのを知らないということを言っていたので、本当に勧めただけなら嬉しいかなと、学校に行くのが苦手な子がたくさん今いると思いますので、本当になんで学校に行かないんだだけではなく、学校に行かなくてもこういうことがやれるんだよっていうのを知っていただけたらいいかなと思っています。

【加藤研一会長】

今のおこのみ会もそうなんですけどね、大きな木の方も週5日ということでびっくりしまして、学校と一緒にだなど、皆さまがそういったボランティアということで、こういう事業に取り組んでいただいて、本当にありがたいことだと思っています。引き続きよろしく願いしたいと思います。

【久恒美香委員】

先ほど、おこのみ会は週1回って話で、大きな木さんは元々は週3回とかだったんですけど、今年度は補助金事業も入ったので、週5日になって、活動拠点が青少年の家が中心だと思うんですけど、それだけではなくて週1回はパークデーみたいのがあって、堀内公園に行ったり、近くの公園で体を動かすことをするっていう日を作ったりされています。

おこのみ会さんのほうも、交流センターが中心だと思うんですけど、じっと中にこもっていろいろされてるだけではなくて、そこにある多目的ホールの方で体を動かすことをされたり、考えたことを実行する中で、調理を試してみるとか工作をするとか考えて何かを作ることによってされているので、それぞれに合った人たちが、それぞれの場所にいるってことで。

もちろん、そういう場所じゃなくて市が用意してくれた3か所もいいところだと思うんですけど、場所的な問題であったり、通える環境にある、ないとか、そういったことで違う場所に通う人もいるってことで、大きな木さんとかおこのみ会さんを利用される方がいらっしゃると思います。なので、それぞれを認めて、それぞれがいいところがありますので、どこかで不登校の人たちが通える場所ができるといいなと思っています。

【加藤研一会長】

はい。ありがとうございます。他はよろしいですかね。それではこれで議題のほうを全て終わりましたので、事務局にお返しします。

3 その他

【事務局】

はい。事務局でございます。

皆さま活発な議論、そして貴重なご意見ありがとうございました。最後に部局からご案内をいたします。安城市は昭和27年5月5日に市制を施行しまして、令和4年度に市制施行70周年を迎えます。

この市制施行70周年に「幸せつながる健幸都市 安城」の実現に向けて記念事業を行うにあたりまして、そのテーマを「ともになえる」とし、記念のロゴマークを決定いたしま

した。このロゴマークですが、安城市出身のグラフィックデザイナーでございます廣村正彰さんに作成をいただきました。3つの案から、市内の小中学校に通う児童生徒の皆さんによる投票を経て決めたものでございます。

市制施行70周年に向けまして、「ともにかなえる」というテーマと記念のロゴマークに込めております「多くの市民がつながりを深めることで、誰もが活躍できる機会」を創出するための施策を進めてまいります。

「ともにかなえる」というテーマにご賛同いただける皆様に、ぜひ記念のロゴマークを皆さま方の事業においてもご活用いただきたいと思いますと考えております。また、民間の皆様とともに公民連携による事業も行っていきたいと考えておりますので、関心をお持ちの方におかれましては、ぜひ事務局となります健幸=SDGs課までお問い合わせをいただくようどうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和3年度第1回安城市総合計画審議会を終了いたします。今回は現任期での最後の審議会となります。委員の皆様、本当にありがとうございました。